



# 卯月



## 春の苑 紅にほふ 桃の花 下照る道に 出で立つおとめ

大判家持 万葉集 巻十九・4139

天平勝宝二年三月一日の暮に、春の苑の桃李の花を眺めて作れる歌とある。当時、家持が越中の守として赴任していた富山県は「天ざるひな」、「しなざる越のはて」で、その上、正妻坂上大嬢(さかのうえのおいらつめ)を都に置いての単身赴任だったから、その日々は望郷・妻恋い以外の何ものでもなかったらう。艶麗・華麗ここに尽きるかとおもわれる。

## 振りさけて 若月見れば 一目見し 人の眉引き おもほゆるかも

大判家持 万葉集 巻六・994

家持の少年時代の歌である。この歌を読み、上掲の歌を読むと「三つ子の魂」の必然の発展かと思わないではいられない。



論語 為政篇  
器とはいわゆる器物のこと、机とか茶碗のような道具のことである。器はある用途に役立つために作られており、便利ですぐれたものではあるが他のことには使えない

人間も一芸一能に秀でていることは立派なことだが、それだけでは完全ではない

石田三成の失敗は、彼が優れた実務家ではあっても「人望」「徳性」に欠けていたからである。

### データ 1~3頁

- \*全国百貨店 2月売上高 0.5%減 11ヵ月連続前年割れ
- 九州の大型小売店販売(2月)36ヵ月ぶり前年増
- \*通販売上高 2月 4.2%増 衣料品、16ヵ月ぶり増加
- \*コンビニ 2月売上高 既存店 20ヵ月ぶり増

### 九州・山口 4~8頁

- \*全 147 テナント決まるリバーウォーク北九州 20店が「九州初」
- \*消費税上げ7割賛成 税率は6~10% 5割
- 九経連会員企業
- \*「買い物で天神へ」57% 人気のファッションビル 西鉄HPで調査
- \*経済効果は438億円 リバーウォーク北九州 日銀見込み
- \*車生産100万台突破 九州・山口 2002年度初の達成

### 住まいの情報 9頁

- \*屋根付き都市型2階建て住宅 ミサワホーム

### カー情報 10~12頁

- \*新車販売 400万台回復 国内 1.6%増 2002年度
- \*トヨタ採用2年ぶり増 来春
- \*「英才教育制度」30代生え抜き役員育成 三菱自

### 外食産業 13~16頁

- \*オレゴン州、店づくり協力 牛肉、魚介類、ワイン充実 マルハ
- \*ビール各社 発泡酒大增産 5月増税控え
- \*ファミレスにコース料理 ロイヤル全店でディナー
- \*ゆでないパスタの店 全国60店目標 オールインワン

### 人 ひと 17頁

- \*来店客じっくり観察 店員が教えます S P C横浜シアル店店長 中村 礼司氏

### 売れ筋 18~19頁

- \*人気商品・新製品



### 話題 20~24頁

- \*1律500円『新封筒小包』全国配送 郵政公社
- \*理想の上司たけしさん2年連続トップ 新入社員アンケート
- \*セブンイレブンで画像プリント 富士ゼロックス
- \*「老後への不安」8割 年金など不安 総務省
- \*成果に応じて値引きします 宿泊でダイエット 全日空ホテル

### ネットビジネス 25頁

- \*無料紙運動のネット販売 エキサイト(東京)

### ユニークな店舗訪問 26頁

- \*足裏マッサージと中国茶 複合店舗展開 スタート・コンサルティング

### データ 27頁

- \*全国スーパー2月販売実績 春闘賃上げ平均5539円176組・・・連合

### ホームページ 28頁

- \*ミニ情報200号をお届けするに当たって 他

## 三二情報 200号をお届けするに当たって

お届けしております当社「三二情報」がこの4月号で200号となりました。

1986年9月これを創めましたのは実は、平素ご愛顧を賜り、ご指導をいただいております皆さま方に、是非とも月々のご挨拶を申し上げたい、お礼を申し上げたい、との思いからでした。ところでそれには一体如何すればいいのかわからない、何か良い方法はないか、そこで考えましたのが、日々目にする各紙新聞記事の中から各種業界のデータ（業績その他）及び新しい市場の開拓、顧客の開発、斬新な店舗、その展開、第一線で活躍する方々のユニークな発想や工夫、あるいは新商品などの明るく楽しい話題をまとめてお届けしては如何だろう、というものであります。

編集・制作の都合上、あるいは速報性には欠けるだろう、しかしひょっとして何かのお役に立つのではないかと考えたのでした。

以来今日まで、果たしてお役に立っているのか、常々その反省の中で何時の間にか200号となった次第です。

また最終のホームページ（お知らせ欄）では、当社から皆さまへのお願いやお知らせを掲載しておりますが「知っておきたい諺あれこれ」は、近ごろのカタカナ語の氾濫、日本語の乱れのおかげで、皆さまとの意志の疎通に事欠くことなどあってはならぬと社内で始めました言葉の勉強会のひとつをご紹介します。

また「おどろきつづやき」は当社社員たちが各々抱いております自分の仕事に対する心構えや思い、あるいは反省や失敗などの率直な「ことば」です。

多忙なお仕事の合間、ご一服の折に、川柳の滑稽、貝吉氏の「気まま随筆」を斜めにもお読みいただければ幸いに存じます。

皆さまの益々のご繁栄、ご発展を心より祈念申し上げますと同時に今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2003年 4月

株式会社 毎日メディアサービス  
代表取締役社長 田中 浩二



三二情報編集子

### 綿に針を包む

針が刺さってはいけなからと、その針を綿で包んでやる親切な行為、親切心と思っただけで、いかにも優しいそうでありながら、それはうわべだけのことばの「一つが毒を含んでいて、ちくちくすきすき」が厭味や突き刺さる、実にいやな、いじめ、いびりの陰湿な世界である。主として、もの言ひ方について言っただが、意図的に、傷つけるための計算した言葉を使う、こんな底意地の悪いのは、何処にもいるものだ。

### 知っておきたい諺あれこれ

諺は生活から生まれた、人生の知恵といわれます。しかし、ときにはその意味を間違えて聞いていたとか、間違っただけで使っていた、なんて失敗ありませんか。

### おどろきつづやき

私は通勤に毎日電車を利用していますが、ある駅に一際大きく元気な声と笑顔で『ありがとうございます』と乗客一人一人に声をかけている駅員さんがいます。その声の大きさは遠くにも聞こえるくらいで、私にはそれが何となく照れくさく何時もは別の改札口を通るのですが、ある日、他の乗客に紛れて改札口を出ようとした途端いつもの元気な声で『ありがとうございます』と声をかけられ、思わず逃げるように通り過ぎたのですが、しかしそのあとで最近元気な声と笑顔を無くしてしまっている自分に気が付き急に情けなくなりました。仕事でもパソコンや携帯電話でのメールのやりとりが主流になりキチンとした挨拶や言葉を交わす機会が少なくなった現在、忘れかけていた大事なものを教えてくれた駅員さんに感謝し、お得意さまに元気な声と笑顔での挨拶を心がけていきたいとの思いを新たにしています。

福岡本部 永野 繁

### 新聞休刊日（予定）のお知らせ

4月以降の新聞休刊日・折込出来ない日（予定）は下記の通りです。なお都合により変更となる場合もありますのでご注意くださいようお願い申し上げます。

5/6（火） 6/9（月） 7/14（月） 8/11（月）

9/16（火） 10/14（火） 12/15（月）

平成15年度4月と11月は休刊日がありません。

## 「ひめゆりの塔」で・・・戦争の記憶

三月初旬、友人夫妻と沖縄に旅行した。家内は初めてだが私は仕事で十数回行ったことがある。といっても沖縄が本土復帰して(一九七二)数年後のことだから、そのころに較べると立派になった那覇空港、建ち並ぶ高層ビル、南北を結ぶ美しい幹線道路、豪華なホテルなど、何も彼もが驚ろくほどの変わりようだった。一方、真ん中にシーサーがでんと坐っている赤瓦葺きの屋根、寄せ棟造りのあの風情のある民家が姿を消しているのが残念だったが、そのまた逆にバスが走る道路脇の樹木が伐り払われたお陰で、いろんな形をした儒教風の墓が海に向かって立てられているのを沢山見ることが出来て興味深かった。

二日目の海洋博公園、ここには東洋一の水族館があるとのことだったが疲れていた私は一人で海辺に出てみた。そこにはエメラルドグリーンの美しい海が東支那海に向かつて果てしなく広がり、沖には珊瑚礁に碎ける波が白く輝いていた。静寂に包まれた大空間、ボンヤリと蒼い空に浮かぶ雲を眺めていた私の頭をふっとひとつの言葉が横ぎった。

雲こそ吾が墓標

落暉よ碑名をかざれ

阿川弘之の小説「雲の墓標」の終章、吉野次郎が鹿島に宛てて書いた遺書の冒頭の言葉である。京大在学中、学友の鹿島、藤倉、坂井と一諸に海軍予備学生として召集された彼が特攻出撃の前日に書き遺したもので、藤倉と坂井は己に戦死していた。

何故不意に昔読んだそんな言葉を思い出したのか。恐らくそれは、そのときの私の何処かに、この美しい海岸でも米軍との激しい戦いが繰り広げられたのではないのか、この沖に集結した米軍の艦艇に向かつて特攻機が出撃したのではないのか、そして多くの日本人の血が流れたのではないのか、という思いがあったからだろう。

そして翌日、「ひめゆりの塔」に向うバスの中では、二十数年前、樹木一本生えていない、荒々しい岩肌の低い丘陵の裾の小さな洞穴、真暗で何も見えないその奥を這うようにして覗きながら、退避命令が出たことも知らなのまま、数十名の若い女子挺身隊員が此処で自決した(一九四五、六、十九)のだと思わず涙を流したことを思い出していた。小さな慰霊碑が立っていた筈だ。

だが、その日訪れた其処は違っていた。土産物屋が軒を並べ、まるで観光名所か公園でもあるかのように広々と整備された其処には、戦争の悲惨を物語るものは何もなかった。「何故だッ」私は驚ろくと同時に腹が立ってならなかった。慰霊碑に花を捧げたのが友人と私たちだけだったことも淋しかった。

戦争の悲惨は正しく、多くの人に伝えられなければならない。そのためにはより多くの人に訪れて貰わねばなるまい。しかし、だからといって、伝えるべきもっとも大切なことを忘れてはならないのではないのか。

楽しい沖縄の旅行は戦争を思い出す旅でもあった。そして、いままたその戦争が戦われている。

貝 玲 吉